

(3) プリズム矯正法 I - 逆プリズム法: inverted prism

参考) プリズムと斜視 P85, 視能矯正学 P378, 視能学 P445, 斜視弱視アトラス P196



この2冊の本のプリズム
の置き方は反対だと思う。

準備物 プリズム眼鏡又はフレネル膜プリズム・アイパッチ又は遮閉膜・固視目標



目的

健眼は遮閉を行い、逆方向に
プリズムを装用させ、中心窩で
の主視方向を認知させる



適応

偏心固視弱視眼の場合

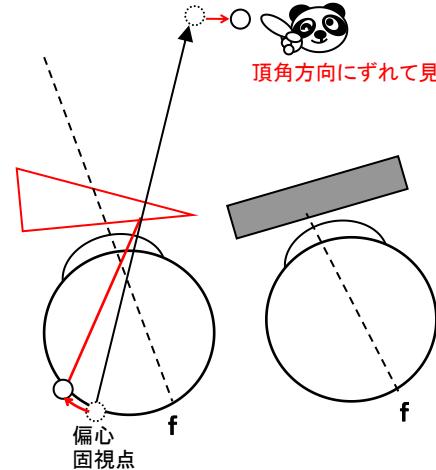
健眼遮閉(又は弱視眼の2段階下まで視力を落とす遮閉膜で健眼不完全遮閉)を行い、偏心固視眼に中和方向と基底を逆にしたプリズムを偏心度に比例させて通常6~20△位まで(視能学P445では1枚最大6△、常用的には片眼5△でそれ以上は追加をフレネル膜で記載があり、必要な度数と同値のプリズムがない場合は、通常眼つぶしの効果をねらって多めに)を装用して固視目標を見せる



装用度数は偏心度に比例させてと書いてあるが
詳細は記載されていない。
視能学P445によれば、眼底カメラで測定して
計算するらしい。
プリズムと斜視P85では
10△以下の偏心固視が
適応でET5△B-in, XT
5△B-outくらい装用と
記載がある。

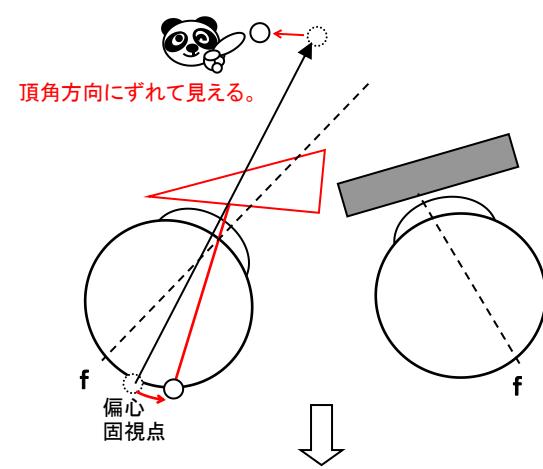
* プリズムの光線は簡略化

例) 左眼 耳側偏心固視



頂角方向にずれて見える。

例) 左眼 鼻側偏心固視



頂角方向にずれて見える。

例)

- ・主視方向?何かおかしい!
- ・見ようとするものの位置がおかしい!

例) 左眼 鼻側偏心固視の場合

- ①一時的に患眼の偏心固視点で見ようとして外転する。
- ②健眼もまたHeringで内転する。
- ③患眼が自然に内転し元の位置(偏心固視点の元あった眼球の位置)で再固視すると同時に健眼も元の位置に戻る(ただしこの場合視標を見ている位置ではないのでおかしいと感じる。ただし詳細の記載がない。)
Rubinによれば、偏心固視眼を充分に外方に動かすので中心固視が可能になるような外転筋のトーヌスを増加させることになり偏心固視の治療になるのでは?とのこと。

不二門尚・斎藤純子訳: プリズムと斜視 P85

目標)

正常な外眼筋トーヌスに気づき、偏心固視点での
主視方向が間違っていることを認知し、方向を断ち
切って、新たな中心窓での主視方向を生む

